

# 第11回 中央地区ふれあい祭り

～つなげよう中央地区の絆～

## 消防自動車の展示



乗ってみたよ!!

10月18日(日)秋晴のなか、  
約400人が来館!



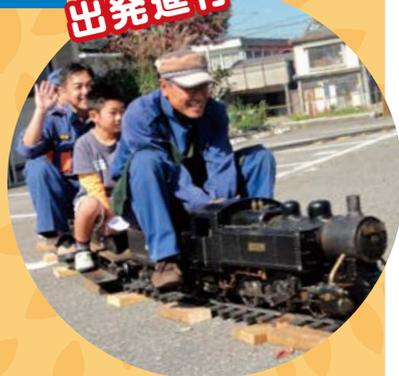
力作の数々



展示コーナー



出発進行ー!!



二胡奏者 野田裕子さん



子どものお絵かきコーナー



旧町名かるたあそび

## 大盛況! 催し物コーナー



福祉ひろばの販売コーナー



販売コーナー

## 各団体の皆さんによる ステージ発表



松本太極拳交流会



手話サークルHANDの輪



城西扇舞



中央地区民謡会



大手公民館歌唱講座



カラオケ発表会



上土よいまちクラブ

**中央地区  
自主防災訓練を終えて**  
中央地区副防災部長 川久保 潔



多くの住民が参加した防災訓練

去る10月4日(日)に中央地区防災訓練を大手公民館で行いました。

今回は会場の広さの関係上、町会長、防災部長等町会の役員を中心に66名の方に参加していただきましたが、初めて机上訓練を取り入れて、頭を動かすことで大規模災害の際にどのように対応するかを住民同士が地図上でシミュレーションする「DIG(ディグ)」を行いました。

内容は、震度7の地震が発生し、市の指定避難所及び医療救護所へ住民を避難させる事態になったことを想定、各町会で危険な箇所を確認して避難路を作成し、住民を誘導するルートを作りました。普段ウォーキング等で区内を歩いている人でも、屋根瓦や窓ガラス、看板等の落下を想像していない方が多く、

どんな危険があるか戸惑いがみられました。避難路は、電柱の無い広い道路が選定されていました。地震時の避難の方法(ルール化)は、町会によるバラツキが見られました。自主防災会で防災計画の細則(具体的行動書等)を作成している町会は、避難の具体的な方法を作成することができていましたが、細則を作っていない町会は、ルールが完成していませんでした。避難所運営を含め避難行動は、集団行動・集団生活になるため、ある程度のルール化が必要です。

意識の向上、想像力、問題解決能力、協調性等を養うには机上訓練が有効と考えます。机上訓練でルール化した事を実践訓練で確認するほうが混乱が少なく、住民の結束も図れて効果があります。

今回は地震時の避難でしたが、風水害時等いろいろな場面が想定されますので、各町会は想定されることを普段から意識され、具体的な行動書を作成して、冷静に行動されることを願っています。



町会ごとに活発な意見交換が行われた

**中央地区  
あるき隊に参加して**  
輪湖 弥之助(丸ノ内町会)



大手公民館主催の会に参加して、6月から全5回の講座で中央地区の歴史的地点の説明を聞いたり、構造物や建物を見て歩きました。

それぞれの歴史的ポイントを時代別にみると、江戸時代にはお城を中心に総堀に囲まれた武家地と、その周辺にお城に隣接する施設が存在し

ましたが、その当時の建物の新旧の移り変わりはゆっくりだったように思います。

明治維新を境にそれまでとは比較にならない程早く多様な動きが始まり、城下町の様相がすっかり変わってきました。

また、同時に西洋化の波が押し寄せ、松本は近代的な町並みになってきました。しかし道路の道筋だけは江戸時代と大差なく変わっていません。

大正、昭和になるとモダンな建築も増えてきています。皆さんと歩きながら、平成から将来どの様な形でこの歴史ある城下町は変化していくだろうかという思いを巡らせているところです。

**松本城の野鳥たち ③1**  
シジュウカラ



写真は久保田佐久良さん(岡田在住)が松本城の外堀で撮影

シジュウカラは、鳥類スズメ目シジュウカラ科シジュウカラ属の一種である。

全長約14・5cmでスズメくらいのおおきさであり、翼開長時には22cmほどになる。

市街地の公園や庭などを含む平地から山地の林、湿原などに生息する。食性は雑食で果実や種子、昆虫などを食べる。

「四十の雀すずめ」と書いてシジュウカラ。たくさん群れるからという説やスズメ40羽分の価値があったことから名付けられたという説もある。

**長元坊 ちよんげんぼつ**

サッカーには全然興味がなかったが、孫が松本山雅のスクールに入ったこと、浦和レッズを破るジャイアントキリングや山雅劇場等の話題がきっかけで、応援に出かけるようになった。以来6年経つが、技術的な事や戦術的な事は未だに全然わからない。でもなぜこんなに山雅にハマったのか、ちよつと振り返ってみた。神林にある総合球技場「アルウィン」は、お母さんに抱かれた赤ちゃんから80代、時には90代と思われる老人まで、日常見ている普通の人々で埋まり、のどかな雰囲気をも出している。

選手の練習が始まると応援も始まり、ムードが高揚し試合が始まる。選手の必死な頑張り、状況に応じた応援の高まりの中で勝利への願い、良いプレーへの賞賛、得点の喜び、勝利の歓喜、失点の虚しさ、敗戦の悔しさ等々の感情がスタジアムの全員へ、強烈に突き刺さり同時に燃え上がる。日常では感じられなくなった心への激震かもしれない。

(T・M)